4)ラークスパー新品種候補「CO-1」

中央農業試験場　園芸部　野菜花き第2科

1.はじめに

ラークスパーはキンポウゲ科の一年草で和名は千鳥草である。添え花としての需要は根強く、定植から採花まで2ヶ月程度と短いため他の品目との組み合わせが容易で栽培が伸びている。花色は紫、藤、桃、赤、白の単色で主であるが、近年複色(覆輪咲き)品種が発表され注目を浴びている。新花色本品種の育成により花色レパートリーが増え、さらに需要の拡大が期待できる。

2.育成経過

H2年に当場で実施したラークスパーの品種特性調査で「ブルースパイヤー」(日本の種苗会社が外国からの導入した品種)という紫色の品種中(40株供試)に白地に紫色の刷毛目の入った個体を1個体発見しその個体の自殖により採種した。

平3年にその種子で集団(約70個体)を養成し紫色の個体(約30%)を淘汰し、集団採種した。

平4年にはほぼ100%(300個体中2個体が紫)の個体が白地に紫色の刷毛目になり、目標とした花色がほぼ固定した。このため紫色の個体を淘汰して集団採種し予備検定用の種子を得た。

平5年は集団種子を栽培して従来品種と比較する特性予備調査を実施した。

平6年から平5年産の種子(約100個体の集団より採種)をもって系統名「CO-1」(属名consolidaの頭文字CO)を付け生産力検定試験、地域適応性試験、地域適応性現地試験を実施した。

3.特性の概要

1)植物体

草型は開張型。草丈は4～5月播きで100～150cm程度。

2)花序(花の配列状態)

花序の長さは50cmを超えるので長。花序の幅は7㎝を上回るので中。1花序に着生している小花数は20個を超えるので中。1花序に着生している小花の密度は中。

3)花

花の咲き方は普通咲、花形は八重咲き。

花冠の大きさは4cm程度なので中。花柄の長さは4cmで中、がく片の数は10枚を超えるので多。花のように見えるのはがく片で、毛を有しない。

最外層のがく片の全形は菱形、長さは2.0～2.5㎝で中、幅は1.5㎝程度で中、着色パターンはその他で白地に紫色の刷毛目が入り、刷毛目の入り方には個体間で濃淡が認められる。がく片表面の色は紫(No.8004、明青紫)、裏面先端部に不明瞭な緑色着色を認める。

最内層のがく片の全形は菱形、長さは2.0㎝以下で短、幅は1.2㎝程度で中、着色パターンはその他、表面の色は紫(No.8304、浅青味紫)、裏面先端部に不明瞭な緑色着色を認める。がく片には距を有し、長さは1.5㎝を下回るので短、太さは0.1㎝で細、色は淡緑(No.3512、黄緑)。

花弁部の大きさは1.2㎝程度で中、数は2枚程度で少。花弁には距を有しない。花弁の色は複色で白に二次的な色は淡紫。表面には毛を有しない。

葯の色は黄褐。花は香りを有しない。

4)生態的特性

繁殖法は種子系、開花期は晩、落花の難易は中、耐寒性は弱、耐暑性は中、病害・虫害抵抗性は中。

「CO-1」の特性を要約すると以下のとおり

1)花色は全て白地に紫色の刷毛目の入った複色である。刷毛目着色パターンの特性は新規。

2)刷毛目の入り方の濃い個体が5%程度ある。

3)晩生品種である。

4)花穂長は市販品種と比較してやや長く、着花密度(花の着き方)もやや低い。

5)その他の切花形質は市販品種並である。

6)切花形質のばらつきは市販品種に比べ小さい。

4.普及態度

全道一円の施設、雨除け栽培で作付け可能。既存品種の一部の置き換え及び新規需要が見込める。

栽培は慣行栽培に準ずる。

表1　　中央農試調査結果

年次	播種期 月日	系統名・品種名	発芽率 (%)	採花始 (月日)	到花 日数	採花率 (%)	病害 (%)	異色 (%)	切花長 (cm)	切花重 (g)	調整重 (g)	花穂長 (cm)	花蕾数 (個)
平6	4.01	CO-1	99	7.19	109	86	14	0	147.6	133.5	47.0	51.2	26.1
		ブルースパイヤー	93	7.04	95	98	2	0	129.7	125.2	54.3	41.2	23.2
		ホワイトスパイヤー	97	7.19	109	77	23	0	118.6	138.6	70.1	41.5	25.9
		ピンクパーフェクション	95	7.17	107	56	44	0	110.4	137.7	79.4	35.0	22.4
		ブルーセレクト	99	7.08	98	69	31	50	155.1	163.2	55.3	50.5	24.1
	5.15	CO-1	91	8.11	88	95	5	0	93.3	59.9	70.0	30.4	20.5
		ブルースパイヤー	88	8.02	79	94	6	0	88.1	58.2	62.4	32.8	16.5
		ホワイトスパイヤー	94	8.10	87	91	9	0	86.5	50.0	70.5	31.2	26.2
		ピンクパーフェクション	81	8.06	84	86	14	0	86.1	65.7	76.4	31.2	20.5
		ブルーセレクト	91	8.02	79	84	16	44	97.0	76.5	62.3	35.2	19.7
平7	4.04	CO-1	72	7.25	112	72	13	0	123.7	130.1	55.9	48.7	25.1
		CO-1(94年採取)	47	7.24	111	72	25	0	127.9	125.5	52.5	48.1	23.9
		ブルースパイヤー	57	7.20	108	81	19	0	126.7	119.6	60.1	41.9	24.2
		ホワイトスパイヤー	54	7.28	105	19	81	0	118.7	120.3	67.4	45.3	24.7
		ピンクパーフェクション	42	7.22	110	50	50	0	118.3	142.9	69.0	46.1	24.3
		ブルーセレクト	71	7.12	99	84	16	6	123.0	125.1	61.5	49.2	19.5
	5.16	CO-1	59	8.24	100	89	11	0	89.4	43.8	50.1	41.7	16.6
		CO-1(94年採取)	53	8.28	104	69	31	0	98.8	52.0	50.3	45.2	19.0
		ブルースパイヤー	53	8.09	85	98	2	0	71.6	35.8	66.0	31.5	10.5
		ホワイトスパイヤー	60	8.30	106	88	13	0	97.6	58.8	60.1	40.8	22.3
		ピンクパーフェクション	29	8.17	94	83	17	0	73.1	43.1	-	32.6	11.5
		ブルーセレクト	51	8.23	99	66	34	9	93.0	57.0	65.3	42.1	17.0

*「CO-1」は平成5年採種、対照品種は毎年新規購入

表2　　「CO-1」の特徴

	花色	早晩性	長所	短所
CO-1	複色、白地に紫色の刷毛目 (新規の花色)	晩	切花形質が安定し、歩留まりが高い。	花の着き方の密度がやや低い。
従来の品種	単色、複色 (白地に紫の覆輪)	早～晩		切花形質が不安定で歩留まりが低い。

表3　　ラークスパーの作型

播種期	3月	4月			5月			6月			7月		
	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
3月下旬	播種	――	――	――	定植	――	――	――	――	――	採花		
4月下旬	――	――	――	播種	――	――	――	定植	――	――	――	――	採花

※5月中旬以降の播種では早期開花による切花品質劣化。

ラークスパーの草姿

目次へ戻る